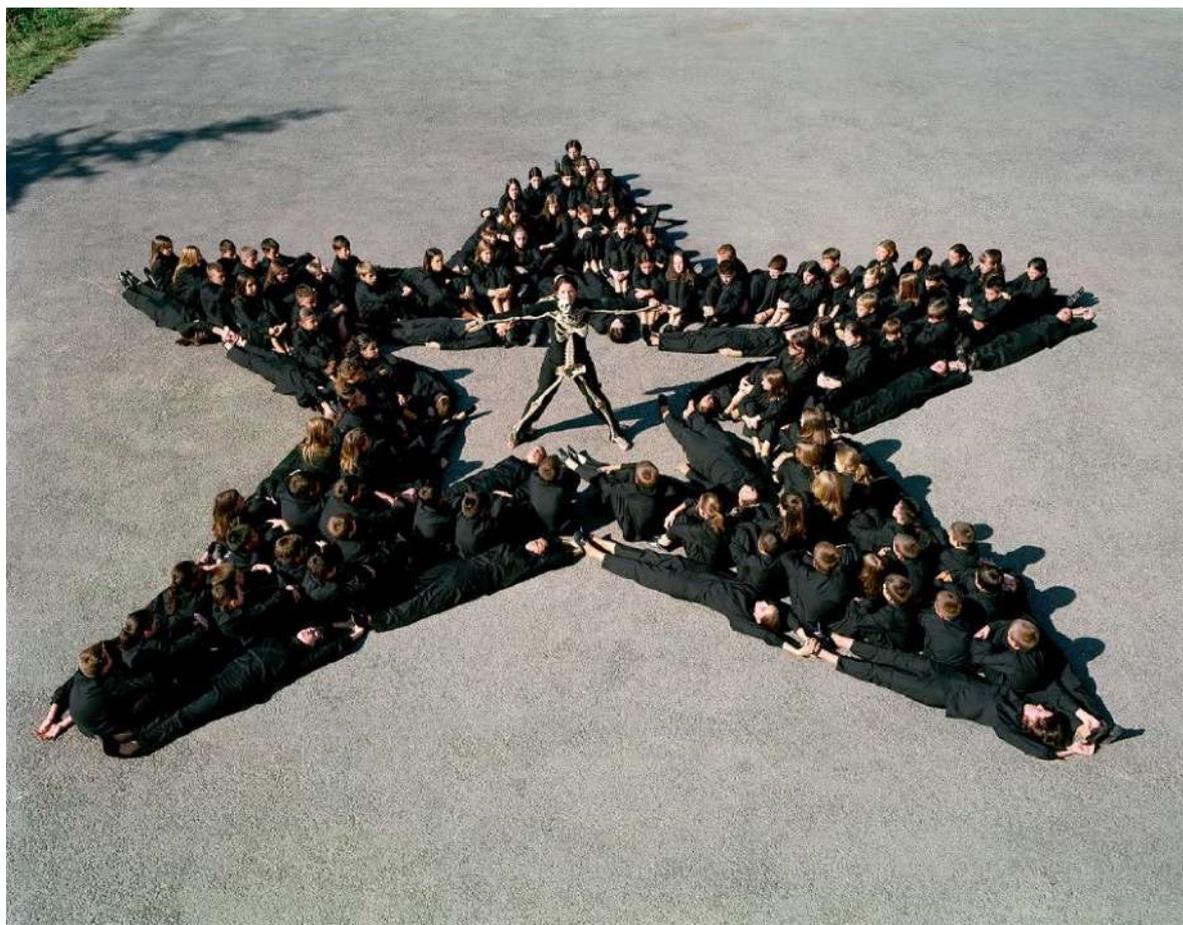


CAMK コレクション展 Vol. 7
未来のための記憶庫

CAMK Collection Exhibition Vol. 7
Memory Storage for the Future

2023年4月29日(土・祝) ~ 6月25日(日)



マリナ・アブラモヴィッチ 《Count on Us》2003 映像インスタレーション © Marina Abramović Courtesy of the Marina Abramović Archives

このたび、熊本市現代美術館では「CAMK コレクション展 Vol. 7 未来のための記憶庫」を開催いたします。

熊本市現代美術館の作品収集方針にはその収集対象の基準として、地元ゆかりの作家の作品、国際展などで発表された優れた作品、当館の各展覧会で紹介した作家の作品、といった事項を掲げています。

本展では、これらの収集方針と対応する構成で、地元の美術史をさまざまな側面から物語る作品群をはじめ、世界的作家が熊本での展示を機に制作したコミッション作品や、近年の時代状況を反映した若手作家の仕事まで、当館コレクションのエッセンスをご紹介します。

企画概要

多くの方にとって、美術館とは「展覧会を観に行くところ」かもしれませんが。しかし美術館には展覧会の開催と並行して担い続けているさまざまな役割があり、その重要なひとつが「コレクション」をめぐる仕事です。

熊本市現代美術館の作品収集方針にはその収集対象の基準として、地元ゆかりの作家の作品、国際展などで発表された優れた作品、当館の各展覧会で紹介した作家の作品、といった事項を掲げています。本展では、これらの収集方針と対応する構成で、地元の美術史をさまざまな側面から物語る作品群をはじめ、世界的作家が熊本での展示を機に制作したコミッション作品や、近年の時代状況を反映した若手作家の仕事まで、当館コレクションのエッセンスをご紹介します。

各種の展覧会は、会期を終えれば姿を消してしまいます。しかし、その出展作の一部が当館コレクションに組み込まれることによって、その企画や作品の記憶は、展覧会の同時代にいわせられた人々だけでなく、10年後、20年後、さらに未来を生きる人たちにも共有され続けていくこととなります。それらの企画や作品は、コレクションによって「熊本の一部となる」ともいえるでしょう。コレクションとは時代を超えて受け継がれる一種の記憶庫であり、地域のアイデンティティを形成する存在でもあるのです。

今回のコレクション展示をとおして、熊本市現代美術館の20年あまりの活動のなかで蓄積されてきた文化的記憶をたどるとともに、パブリックコレクションの意味を確かめ直すことができれば幸いです。

展覧会概要

展覧会名：CAMK コレクション展 Vol. 7 未来のための記憶庫

会 期：2023年4月29日(土・祝)～6月25日(日)

会 場：熊本市現代美術館 ギャラリーI・II、フリーゾーン、熊本市役所 庁舎

時 間：10:00～20:00 (ただし展覧会入場は19:30まで)

休 館 日：火曜日

主 催：熊本市現代美術館(熊本市・公益財団法人 熊本市美術文化振興財団)、
熊本日新聞社

助 成：一般財団法人地域創造

後 援：熊本県、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県文化協会、
熊本県美術家連盟、熊本国際観光コンベンション協会、J:COM熊本、
エフエム熊本、FM791(予定)

観 覧 料：一般600(500)円、シニア(65歳以上)500(400)円、

学生(高校生以上)400(300)円、中学生以下無料(予定)

*各種障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、被爆者健康手帳等)を
ご提示の方と付き添いの方1名は無料

* ()内は前売/20名以上の団体/電車・バス共通1日乗車券、市電緑のじゅうたんサポーター証、
熊本県立美術館友の会証、JAF会員証をご提示の方

*前売券は4月28日(金)まで販売。

*チケット取扱：熊本市現代美術館、ローソンチケット、セブンチケット

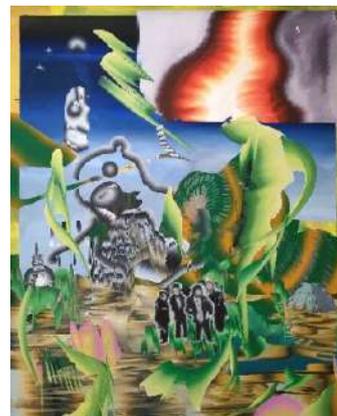
展示会場と 出展作品について

本展では、企画展示室内での作品展示のみならず、美術館建築と一体となって展示されている常設作品や熊本市役所内の恒久設置作品も本企画の「出展作品」の一部としてとらえ、改めてスポットを当てます。それぞれの会場について鑑賞ツアー等のプログラムを実施することで、広い視野をもってパブリックコレクションの意味を考えていきます。

▼各会場出展作家（作家名はいずれも順不同）

熊本市現代美術館 ギャラリーI・II〔メイン会場〕

井手宣通、浜田知明、坂本善三、海老原喜之助、田代順七、千賀友子、春口光義、板井榮雄、淵田安子、今田淳子、林浩、青木豊、坂本夏子、川内倫子、秀島由己男、石内都、吉山安彦、奥井紀子、入江章子、中原繁敏、木下今朝義、森繁美、奥井喜美直、大山清長、マリーナ・アブラモヴィッチ、菊畑茂久馬、森山安英、吉村益信、佐々木耕成、田上賢二、真珠子、陸揚、浦川大志、名もなき実昌、日比野克彦



左：川内倫子《川が私を受け入れてくれた》シリーズより 2016 発色現像方式印画
右：浦川大志《熊本駅から風景（撃つ用意）》2019 パネルに綿布、ジェッソ、アクリル

熊本市現代美術館 フリーゾーン

宮島達男、ジェームズ・タレル、マリーナ・アブラモヴィッチ、ユック・クンビョン、藪内佐斗司、草間彌生、李禹煥、コーダ・ヨーコ、三沢厚彦



マリーナ・アブラモヴィッチ《Library for Human Use》2002 © Marina Abramović
ジェームズ・タレル《Milk Run Sky》2002

熊本市役所 庁舎

坂本善三、関根伸夫、坂田憲雄、三浦洋一、柳原義達、村上賢秀、
生田義廣、中根宏、沢田麗子



生田義廣《火口壁》1981 陶板、花崗岩

関連イベント

1. トーク&ワークショップ「記憶庫から記憶を引き出してみる」

作品や資料は、それ自体がさまざまなことを物語るものであるのと同時に、人の記憶を呼び覚ます触媒にもなりうるものです。このイベントでは、出展作品の制作過程や展示、収集などの場に関わった人々とともに会場を回り、各作品にまつわる記憶をよみがえらせ、ご来場の皆さんと共有したいと思います。イベント中は、一般参加者からの発言も大歓迎です。

- 日 時：4月29日（土・祝）14:00-15:00
- アテンド：佐々木玄太郎（熊本市現代美術館 主任学芸員）ほか
- 場 所：展覧会会場内
- 定 員：15名 要展覧会チケット 事前申込不要

2. 熊本市現代美術館アートワークツアー

当館にはいわゆる「常設展示室」はありませんが、館内のさまざまな場所に建築と一体化した形で作品が設置されています。このツアーでは各作品をめぐり、制作当時のことも振り返りつつ、パーマネント作品のおもしろさと難しさの両面についてお話しします。

- 日 時：5月7日（日）／6月3日（土）14:00-15:00
- アテンド：富澤治子（熊本市現代美術館 主査・学芸員）ほか
- 場 所：館内フリーゾーン
- 定 員：各回15名 参加無料 要事前申込

関連イベント

3. 熊本市役所アートワークツアー

熊本市民にとって最も身近なアート作品といえば、熊本市役所に点在している地元作家のそれかもしれません。このツアーでは、風景の一部として慣れ親しんでいるそれらの作品に改めて注目し、その制作時の構想と現在の状況を見比べながら、「パブリックなアート」のあれこれについて考えます。

- 日 時：5月24日（水）／6月16日（金） 14:00-15:30
- アテンド：佐々木玄太郎（熊本市現代美術館 主任学芸員）ほか
- 場 所：熊本市役所 庁舎
- 定 員：各回10名 参加無料 要事前申込

4. トーク「更新される“コレクション”の概念」

現代の表現者たちは、パフォーマンスやアート・プロジェクトといった形に残りにくい表現手法を用いて活動を行うことも少なくありません。それらは現在の表現活動の重要な一部ですが、美術館のコレクションは果たしてそれらをどのように扱おうのでしょうか？ 文化財・芸術の保存と継承を専門とする研究者で、当館の収集活動にも関わっていただいている平諭一郎さんを講師に招き、当館の直近の収集活動も例に挙げながら、その考え方についてお話しいただきます。

- 日 時：5月13日（土） 14:00-15:30
- 講 師：平諭一郎（東京藝術大学 未来創造継承センター 特任准教授／熊本市美術品等収集審査委員会委員）
- 場 所：ホームギャラリー
- 定 員：50名 参加無料 事前申込不要

5. ワークショップ「私たちは、いにしえからの最高傑作」

出展作家の真珠子によるワークショップ。歌舞伎をモチーフにした作家オリジナルのタロットカードぬり絵を、いまの自分の心の色で塗ってみましょう。ぬり絵が完成したら、それをもとに真珠子がカウンセリングをおこないます。

祖先たちがよりよく生きるべく努めてきたその営みの先に、私たちは存在している。そのようなことにも思いを馳せながら、ワークを楽しみたいと思います。

- 日 時：5月20日（土） 14:00-16:00
- 講 師：真珠子（出展作家）
- 場 所：ART LAB MARKET
- 定 員：20名 参加無料 要事前申込

▼関連イベント申込方法

関連イベント2、3、5については、以下の事項を記載の上、メールでお申込ください。

- (1) 参加希望のイベント名
- (2) お名前
- (3) 電話番号

申込先：gamadas@camk.or.jp

記者発表

2023年4月28日（金）13:30～

*一般公開 4月29日（土・祝）10:00～

開会に伴い、記者発表および会場内ツアーを行います。ご参加予定の方は事前にご一報ください。

タイムスケジュール

13:00 受付開始

13:30 記者発表、内覧会開始

- ・会場案内（担当学芸員によるツアー形式／約30分）
- ・個別取材・撮影タイム（約60分）

15:00 会場クローズ

注意事項

* 作品保護のため、館内では鉛筆をご利用ください。お持ちでない方には貸出をいたします。（ボールペン・シャープペンシルのご使用はお控えください。インク、先のとがったものによる作品の破損を防ぐためです。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします）

* 作品保護のため、お手回り品（リュック等）が壁や作品に触れないよう、ご注意をお願いいたします。（会場でご使用にならないお荷物はコインロッカーをご利用いただくか、お預かりも出来ますのでお声がけください）

* 受付にてお名刺を1枚頂戴いたします。お持ちでない場合は芳名帳へのご記入をお願いします。

* 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、美術館入口にて検温、手指の消毒にご協力をお願いしております。

お問い合わせ先

熊本市現代美術館（広報担当：中村美友 学芸担当：佐々木玄太郎）

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 TEL：096-278-7500 FAX：096-359-7892

HP：www.camk.jp E-mail：gamadas@camk.or.jp    

- ・美術館入口（びふれす熊日会館3階）まで、通町筋電停又はバス停から徒歩1分です。電車通り側歩道から、エスカレーター又はエレベーターをご利用ください。
- ・「びふれす熊日会館」の駐車場は、数に限りがあります。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

広報用画像

広報用画像をご希望の方は下記内容をメールでお知らせください。広報担当からご連絡いたします。

- ① 掲載媒体
- ② 希望画像 No.
- ③ ご担当者様のお名前、ご連絡先（メールアドレス等）

【使用に際しての注意事項】

- * 使用目的は、本展のご紹介に限ります。本展終了後の使用は出来ません。ご使用後は（掲載、未掲載に関わらず）画像データを削除してください。第三者への譲渡は禁止します。
- * 作品キャプション・クレジットを明記してください。
- * トリミング、部分使用、文字等を重ねての使用はできません。
- * 掲載紙・誌、同録 DVD 等を一部寄贈してください。（WEB 媒体の場合は URL をお知らせください）

	
<p>1</p> <p>マリーナ・アブラモヴィッチ 《Count on Us (Star)》 2003 映像インスタレーション 熊本市現代美術館蔵 © Marina Abramović Courtesy of the Marina Abramović Archives</p>	<p>2</p> <p>大山清長 《裸婦》 1989 キャンバス、油彩 熊本市現代美術館蔵</p>
	
<p>3</p> <p>木下今朝義 《収容所時代》 1998 キャンバス、油彩 熊本市現代美術館蔵</p>	<p>4</p> <p>日比野克彦 《AURO》《NITO》《TUTU》 1995 ダンボール、アクリル、色鉛筆、ジェッソ 熊本市現代美術館蔵</p>



5

川内倫子
《川が私を受け入れてくれた》シリーズより
2016
発色現像方式印画
熊本市現代美術館蔵



6

陸揚
《器世界の騎士》
2018
3チャンネル映像
MPS-15sk"Multi": © IKEUCHI Hiroto
熊本市現代美術館蔵



7

浦川大志
《熊本駅から風景（撃つ用意）》
2019
パネルに綿布、ジェットン、アクリル
熊本市現代美術館蔵